

7 易しい古文を読む

確認問題

① 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

にくきもの。急ぐことある①をりに来て長言する* まらうど。
 * あなづりやすき人ならば、「後に」とてもやりつべけれど、aさ
 すがに* 心恥づかしき人、いとにくくむつかし。
 硯に髪の入りてすらbれたる。また墨の中に、石のきしきしとき
 しみ鳴りたる。
 ②にはかに* わづらふ人のあるに、* 験者求むるに、* 例ある所
 にはなくて、ほかに尋ねありくほど、cいと待ち遠に久しきに、
 ③からうじて待ちつけて喜びながら加持せさするに、このごろ*も
 ののけに④あづかりて、d* 困じにけるにや、* みるままに⑤すな
 はち* ねぶり声なる、いとにくし。

〈清少納言「枕草子」より〉

(注) まらうど 客。

あなづりやすき人 しいかげんにあしらつてもよい人。

心恥づかしき人 身分の高い立派な人。

わづらふ人 病気にかかる人。 験者 祈りをする人。

例ある所 いつもいる所。

ものけにあづかりて 悪霊を退散させる祈りにかかわって。

困じにけるにや 疲れているためであるうか。

みるままにすなはち 座に着くやいなや。

ねぶり声 眠り声。

□ (1) — 線①～⑤のことばを、現代仮名遣いに直して書きなさい。

□ (1) () () □ (2) () ()

□ (3) () () □ (4) () ()

□ (5) () ()

□ (2) — 線a「さすがに心恥づかしき人、いとにくくむつかし」とありますが、「心恥づかしき人」がなぜ「いとにくくむつかし」といえるのですか。その理由として最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア 立派な人は、どんなことを考えているのか理解できないから。
 イ 身分の高い人は、言いくるめて追い返すこともできないから。
 ウ 立派な人との会話は、内容も充実していて楽しいものだから。
 エ 身分の高い人との会話は、内容が難しく堅苦しいから。

□ (3) — 線b「れ」の示す意味として最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア 受け身 イ 可能
 ウ 自発 エ 尊敬

□ (4) — 線c「いと待ち遠に久しきに」とありますが、このときの気持ちを表す四字熟語として最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア 因果応報 イ 優柔不断
 ウ 一日千秋 エ 永久不滅

□ (5) — 線d「困じにける」の主語として最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア あなづりやすき人
 イ 心恥づかしき人
 ウ にはかにわづらふ人
 エ 験者

② 次の古文とその現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

「奥山に、猫またといふものありて、人を食ふなる」と、人のいひけるに、「山ならねども、これらにも、猫の経上りて、猫またに成りて、人とする事はあなるものを」と言ふ者ありけるを、何阿弥陀仏とかや、連歌しける法師の、行願寺の辺にありけるが、聞きて、ひとりありかん身は、心すべきことにこそと思ひける頃しも、ある所に夜更くるまで連歌して、ただひとり帰りけるに、小川の端にて、音に聞きし猫また、あやまたず足許へふと寄り来て、やがてかきつくまに、首のほどを食はんとす。肝心も失せて、防がんとするに力もなく、足も立たず、小川へ転び入りて、「助けよや、猫また、よやよや」と叫べば、家々より、松どもともして走り寄りて見れば、このわたりに見知れる僧なり。「こは如何に」とて、川の中より抱き起したれば、連歌の賭物取りて、扇・小箱など懐に持ちたりけるも、水に入りぬ。希有にして助かりたるさまにて、這ふ這ふ家に入りにけり。飼ひける犬の、主を知りて、飛び付きたりけるとぞ。

〔徒然草〕より 15

◆現代語訳◆

「奥山に猫またといふものがいて、人に食いつくそうだ」とある人が言ったところ、「山ではないにしても、このあたりの猫が歳をとって、猫またになって人を食べることもあるそうだが」と言う者もいたが、それを何阿弥陀仏とかいう連歌をしていた僧で、行願寺のあたりに住んでいた人が聞いて、一人歩きをするような身は注意するべきだと考えていた。ちょうどそのころ、ある所で夜の更けるまで、連歌の会をして、たった一人で帰ってくると、小川のふちで、うわさに聞いていた猫またがともに足もとへついと寄って来ると、そのまま飛びつくなり首のあたりに食いつこうとする。肝をつぶし

て防ごうとすることができず、腰も抜けて小川へ転げこんで、「助けてくれ。猫まただ、猫まただ」と叫んだので、家々から、人々がたいまつをともして走り寄ってみると、このあたりで顔見知りの僧である。「これはどうしたのか」と言つて、川の中から抱き起こしたところが、連歌の賞品として取つて、扇や小箱などを懐中に持っていたのが、川の中に落ちてしまった。ふしぎに命が助かった様子で、はうようにして家に入った。飼っていた犬が、暗いけれど、主人を見分けて、飛びついたということである。

□(1) — 線部「助けよや、猫また、よやよや」とありますが、僧が「猫また」だと思ひこんだものは、実際は何でしたか。古文の中から五字で書き抜いて答えなさい。

□(2) 古文の中のに入る最も適切なことばを、現代語訳を参考にして次から選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 暗ければ
- イ 暗けれど
- ウ 暗きがゆゑに
- エ 暗くなりて

□(3) この古文の話題に通じることわざとして最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 人のうわさも七十五日
- イ 飛んで火に入る夏の虫
- ウ 化けの皮をあらわす
- エ 幽霊の正体見たり枯れ尾花

□(4) 「徒然草」の作者を次から選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 紀貫之
- イ 鴨長明
- ウ 兼好法師
- エ 紫式部